優秀賞
業務改善部門

改善活動の推進による働き続けられる職場環境づくり
～広島県版自己点検ツール「チャレンジ」を活用した３か年に亘る業務改善の取組～

医療法人和同会　広島シーサイド病院
広島県広島市
183床 （介護医療院147床 併設）／ 職員数 369名（うち看護職員数 118名）

課題・背景

20%を超える離職率の原因を調査(2018年)した結果、看護部署、部門間のコミュニケーション不足、中間看護管理者のモチベーション不足、職員のアメニティへの不安、看護ケアの標準化が図れてない、ICT環境への関心が薄いなど、**職場環境・業務体制の問題**が明らかになった。それらについて一体的に取り組むとともに、取り組みの成果を可視化するため、広島県版自己点検ツール「チャレンジ」を活用した。

目的・目標

①業務改善を推進し、離職率を下げる
② 「チャレンジ」を活用した適切なマネジメントの実践
③排泄ケアの改善

チャレンジとは？

2016 年、広島県看護協会が「魅力ある看護の人材確保総合推進事業」の中で開発した自己点検ツール。
看護職員が88項目の質問に回答することで、職場環境の課題を可視化

「チャレンジ」評価項目（8カテゴリー88項目）

	カテゴリー	項目数
I	仕事に感じる価値・やりがい	6
II	主体性と看護への納得度	14
III	創発的な職場	17
IV	看護部の活性度・人材マネジメント	18
V	上司のマネジメント	13
VI	入口のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・入職後の実感	9
VII	就業意欲・転職意向	4
VIII	ストレス、ハラスメント	7
	計	88

2019年度；55施設実施　回答者数7088名
2020年度；55施設実施　回答者数7735名

取り組み内容

①排泄ケアの業務効率化と質向上

多くの患者がベッド上で過ごす時間が長いため、排泄ケアの質向上は重要な課題。10年以上使用していた排泄ケア用品（従来品）の排泄物漏れによるスキントラブルが発生。**新たな排泄ケア用品の選定と導入**や**排泄ケア用タオルのディスポ化**を進めた。

モニタリングをはじめ、排泄ケアサポーター支援による職員教育も実施しながら、**排泄ケアの標準化**に取り組んだ。

②入浴介助着の導入

以前は職員の古くなったユニフォームや私物Tシャツを着用し、自宅で洗濯していたが、**統一された専用の入浴介助着を導入**し、病院でのクリーニングを可能にした。これにより職員個人への負担、衛生面の問題が改善した。

③ボックスシーツの導入

昼夜を問わずシーツ交換が必要が生じるため、業務負荷の軽減と効率化を目指してシーツの種類を変更。これにより作業人数と作業時間の短縮を実現。

④早出業務の見直し・改善
⑤教育ツールの策定・活用、教育体制・内容の改善
⑥共有フォルダの活用

成果・効果

①業務時間の削減

排泄ケアの回数・時間の削減（**4回 60分→3回 30分**）
使い捨てドライウェットタオル導入による削減
ボックスシーツ導入による削減（**2人作業 10分→1人作業 3分**）
合計で180分/日の削減を実現

チャレンジの活用メリット

現場分析や判断のためのツールを持つことで、「現場把握→目標設定→試行→検証→共有」のサイクルができ、自律性の向上とチームの連携が高まり、相互承認・相互信頼・相互支援が実現できる

②費用・人件費の削減

年間**354万円の削減**

③離職率の低下

離職率約26.8%(2017年)から4.3%(2020年)まで減少。離職率の低下により、適正な人員配置ができるようになり、全部署で加算要件をクリアできるようになった

④看護部内・多職種間の連携強化

業務の課題や改善活動の結果を可視化し、共有することで、中間看護管理者の疲弊感が軽減し、部下・上司間の信頼感や関係性が好転。合同入職者研修実施にあたり、全部門の職員がプレゼンテーションを行うことで、部門間のコミュニケーションが良好となり、チーム医療の推進につながった。